

校訓	平成27年度学校教育目標
自学 福祉 剛健	自ら学び、やさしさを持ち、たくましく生きる美保南っ子の育成

まとめ

項目	めざす姿	重点実践目標	最終評価	達成状況コメント						
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支
自ら学ぶ	聞く力、話す力を育て、互いに高め合う学習のできる	・しっかり話が聞ける	B+	自分のしている作業の手を止めて、相手を見て話を聞く児童が増えた。	できる児童はたくさんいるが、自分のしている作業の手を止めたり、手わやくをせずに聞いたりすることができない児童がまだいる。	全体的に高まりが見られるようになってきた。しかし、反面、全く意欲を示さない児童もあり、個人差が拡大している。	一度、「集中」というような声かけが必要なものもあるが、体を向け、集中して聞く態度が育ってきている。	ほとんどの児童がしっかり話を聞いている。中には「目を見て」「顔を上げて」と声をかけなければいけない児童もいる。	事前に意識付けをすると短時間集中する。	支援学級内では話を聞くことができていないが、大きい集団(全校、交流学年、交流学級)では、時間にもよるが声掛けが必要な場合があった。
		・自分の思いを話せる	B	手を挙げて発表する児童が増えた。学習発表会後、相手を意識した声の大きさと発表出来る児童が増えた。	手を挙げて発表する児童が増えてきたが、声が小さくて聞こえなかったり、話したいことを忘れてしまったり、どう言ったらよいかわからなくなったりする児童がいる。	相変わらず「先生に答える。」という意識で発表する子ども一定程度あり、「友達に説明する。」という発表が難しい。	自分の考えや思いを持ち、自信がなくとも積極的に進んで話そうとしている。	思いを受けてとめる雰囲気作りはできている。「自分が言わなくてもいい。」という考えの児童があるので、意識を変えていきたい。考えや意見を言わなければならぬ場面設定が必要。	小グループでは比較的思いを伝えることができるが、全体の場では消極的であり、声も小さい。	支援学級内では、自分の思いを答えることができた。交流学級内では、自分の思いを答えることは難しい。
		・高め合う学習ができる	B	友達の話は聞いているが、頷きや言葉などの反応を返せる児童は少ない。	言葉で反応を返すということにおいては個人差がある。言葉で返せなくても、ノートに友だちの考えを書いたり、自分の学習活動に生かそうとする様子が見られた。	上の項目と同様で、「対教師」の発言が多い。しかし、全体での発表という観点ではなく、広い観点で「高め合う学習」を評価すると、ペア学習、グループ学習などの場面で成果を認めることはできる。	多くの学習の場面で、友達の意見を受け止め、自分の考えとつなげて意見を伝えようとしている。	反応して聞くことはできる。さらに自分の思いを持ち、深めたりつなげたりして、高め合う学習にしていきたい。	多くの児童ができる。話すことより記述の方が積極的に取り組む。	友だちの発言をよく聞き、反応を返すことができるようになった。
やさしさを持つ	相手のことを考え、安全で気持ちのよい生活ができる	・落ち着いた廊下歩行ができる	B+	教室移動では右側を意識して歩くが、休憩時間は、右側を歩いたり、静かに歩いたりする習慣が定着していない。	学習中の教室移動は静かにできている。	担任がその都度意識して指導してきた。なかなか意識の定着が困難な児童もあるが、友達同士教えあう姿も見られる。	教室移動は右側を2列で肩を並べて、静かに歩くことを意識して取り組んでいる。	教室移動は静かにできるが、給食のときの移動がよくないときがある。	卒業式に向けて継続的に指導している。以前より意識して行動できる児童が増えた。	毎日右側通行を意識して、廊下歩行できた。
		・気持ちのよいあいさつができる	B	個人差はあるが、先生や友達に進んであいさつする児童は多い。	あいさつはできているが、声が小さい児童がいる。	あいさつをされたら返すが、自分からあいさつをすることができない児童もいる。また「顔を見て」目を合わせてすることが難しい児童もいる。	朝だけでなく、様々な場面で自分から進んで、明るい声と表情であいさつをしている。	目を合わせて(目を見て)、あいさつができない。	一時停止はできていない(支援もしていない)が、比較的生を出してあいさつできる児童が増えた。個人差は大きい…。	毎日決まった場所(朝の児童玄関、支援学級への入室)では、進んであいさつをすることができるが、その他の場面では自分から進んであいさつを行うことが少ない。
	人のためになる行いに気づき、実行できる	A	・次の人のためにスリッパを揃えることができる	スリッパチェックを行うことで、児童が意識してスリッパを揃えることが出来るようになってきた。	自分のスリッパだけでなく、気付いた時にはそろえている児童が多い。	スリッパを揃えることによく心がけていた。トイレの前を通るときには、スリッパがそろっているか確認している児童の姿も多く見られた。	ペアのスリッパを意識して、次に使うひとのことを考えながら枠内にそろえている。	トイレのスリッパをはじめ、そろえることによく心がけていた。	そろっていることが多くなった。一部乱れていてもすぐに直せるようになった。	意識して取り組むことができた。
	・もくもく掃除ができる	B+	さしすせそ週間(掃除週間)後、黙って静かに掃除が出来ようになったが、教師の指示がないと話をしてしまう児童がいる。	どの掃除場所でも、先生がいなくても静かに活動している児童が多い。	開始時刻に間に合わない児童もいたが、ほとんどの児童が放送がなったら自分の掃除場所へ移動し、掃除を開始できていた。声もほとんど聞こえなくなってきたが、関係のないおしゃべりをしてしまう児童が数名いる。	開始時刻を守り、時間いっぱい静かに掃除をしているが、ときどき騒がしいときがある。	始まりと終わりのけじめ、掃除時間いっぱい掃除をすることが、できていない児童がある。	静かにできる児童が大半だが、おしゃべりをやめられない一部の児童が目立つ。指導を継続する。	時間いっぱい黙って一生懸命掃除をしている。	
たくましく生きる	進んで運動する意欲を高め、体力の向上に取り組むことができる	・剛健タイムで思いっきり遊ぶことができる	A	剛健タイムに向けて、自分たちで決めた遊びを友達と楽しむことが出来た。	みんなで楽しむことができています。	多くの児童が活動を楽しみ、全力で活動している。しかし、一部の児童は、集団からはなれて様子を見ているだけの子もいる。	ゴールの姿を十分達成している。	剛健タイムの振り返りをする中で、次の活動に活かして、みんなが楽しむことができる活動にしていた。	室内遊びが多くなってきたが、なわとびの練習に向けて工夫して練習している児童が見られた。	その日の体調や気分、遊びの内容によっては参加することが難しい時があった。
		・体育学習に全力で取り組むことができる	A	なわとび進級表の活用を通して、児童がめあてを持って意欲的に取り組んだ。	前期に比べると、めあてをもって運動できるようになった。	全力で取り組むことはできているが、児童全員がめあてを持って活動しているとはいえない。	自分のめあてを持ち、運動の楽しさを味わい、友達との関わりも大切にしながら、全力で取り組んでいる。	めあてを持って体育学習に向かうことができる。継続して練習することができるように指導しているところである。	跳び箱運動では、個別に目標を持って練習に取り組む、ふり返りもできた児童が多かった。	授業中や休憩時間での教員の声掛けにより、どんな運動にもめあてをもって、進んで取り組むことができるようになった。
本物にする	できるようになったことを継続する	・下足箱のくつをそろえることができる	A	かかと揃えの習慣がほとんどの児童に身についている。	かかとそろえはできている児童が多い。	多くの児童がくつを揃えができていないが、決まった数名の児童がくつをそろえられていない。	きちんとくつはそろっているが、指差し確認は十分できていない。	意識して下足箱の整頓ができる。	習慣化している。音楽室では、やや問題のある児童がいる。	意識して取り組むことができた。
		・5か条を守ることができる	B	時計を見て行動するという意識がなく、授業準備をする習慣が身につけていない。	時間を守って席に着けるようになったが、道具の整理や学習の準備ができない児童がいる。	静かに待つことができていない児童もあるが、学習の用意ができるようになることも、時刻を守って学習に取り組めるようになってきた。	授業によっては、次の学習の準備が不十分のときがある。	着席して授業の始まりを待つことができない児童がある。	学級差大きい。事前に準備のできない児童がある。	学習が始まる前に次の時間の準備をすることはできた。しかし、座って授業開始を待つことはまだできていない。
		・腰骨を立てて、調息ができる	B+	10時25分から自分たちで始めようとする姿も見られるようになったが、教師の指示がないと、ざわついたり、時間を守れなかったりすることがある。	時間を守って取り組んでいるが、腰骨を立てて1分間姿勢良く座っていることができにくい児童がいる。	多くの児童が静かに立腰ができる。担任不在のとき、開始が遅れるときもある。	ゴールの姿を十分達成している。	1分間の調息はできているが、姿勢がよくない(立腰ができていない)児童がいる。	立腰ができていない児童が3分の1程度いる。	姿勢を意識して取り組むことができた。
開かれた学校	学校の教育活動を積極的に発信する	・HPIによる情報発信を増やす	A							

※評価基準 S:十分達成(ほぼ100%) A:概ね達成(80%程度) B:変化のきざし(60%程度) C:まだ不十分(40%程度) D:目標、方策の見直し(30%以下)